



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	2008年度に開催した国際ワークショップ『北太平洋沿岸の狩猟採集民考古学』について
Author(s)	加藤, 博文
Citation	北方人文研究, 3, 81-81
Issue Date	2010-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/42941
Type	departmental bulletin paper
File Information	JCNH3_007.pdf



2008 年度に開催した国際ワークショップ 『北太平洋沿岸の狩猟採集民考古学』について

加 藤 博 文

北海道大学大学院 文学研究科

本国際ワークショップは、2009 年 1 月 10 日と 11 日の 2 日間にわたり北方教育研究センターの主催で北海道大学において開催された。報告者は海外から 13 名、国内から 15 名と多彩な顔ぶれとなった。とりわけ海外からは、アバディーン大学、オックスフォード大学(以上イギリス)、アルバータ大学、サスカトーン大学(以上カナダ)、ハワイ大学、ワシントン大学(以上アメリカ)、サハリン大学、極東大学(ロシア)など 4 カ国からの参加を得ることができた。また議論された内容もひとつ考古学にとどまらず、文化人類学的や言語学的領域にも及ぶ内容豊かなものとなった。このような有意義なかつ刺激的な議論がもてたことに対しては、ひとえに刺激的な報告をおこなってくれた参加者各位のおかげであり、深く感謝している。

現在、北海道を含む北太平洋沿岸地域の人類史は、国際的な共同研究が数多く展開し、多くの研究者の関心を集めている。なぜこの地域に多くの研究者の関心が集まるのか。

今回の国際ワークショップは、この疑問に対する一つの解答を用意してくれたと言える。北太平洋沿岸地域には狩猟採集経済に生活基盤をおく生活が長く維持されてきた地域の一つである。しかし、この地域で展開された狩猟採集民の歴史は、図式的に農耕民や都市文明と対比される単純な狩猟採集民のイメージとは当てはまらないものである。

この地域の狩猟採集民の歴史をひもとけば、そこには内陸での狩猟採集活動にとどまらず、高度に発達した海洋狩猟、さらにトナカイ、イヌ、ブタなどの多様な家畜飼育、周辺の古代・中世国家との様々な交易活動、考古学的に蓄積されてきた資料を基礎として描き出される姿を通して、人類文化の多様性を明瞭に示している。

21 世紀を生きる我々にとっては、近代以降に構築されてきた発展段階史観や未開と文明という単純かつ素朴な構図が多彩な人類史を語る道具として、既に有効性を消失していることを痛感している。このような状況において北太平洋沿岸地域の狩猟採集民の歴史が提示してくれる像は、新たな人類史の分析手法を検討する上でも重要な手がかりとなることを、本ワークショップを通じて改めて再確認することとなった。

また今後の研究の枠組み作りとして、一国内にとどまって議論をするのではなく、共通の関心をもつ海外の研究者との共同研究の重要性についても確認する上で重要な機会となったのである。

本ワークショップの成果は、改めて論集という形で編集されることとなっている。またワークショップ参加メンバーを中心として国際的な共同研究へ移行することが確定し、目下 2011 年 1 月からの開始を目指して準備が進められていること、その際に北海道が国際的なフィールドスクールの地として推薦されており、北海道大学が日本側の受け入れ機関となったことを本ワークショップの成果の一つとして最後に報告しておきたい。